URP Osaka City University
Newsletter
Issue 34, Feb.2017
大阪市立大学 都市研究プラザ ニューズレター第 34号 2017年2月

大阪市立大学都市研究プラザ先端的都市研究拠点・第１回 URP 特別研究員（若手・先端都市）合評会兼第１回夏季セミナー報告会

Osaka City University's Urban Research Plaza (Platform for Leading-Edge Urban Studies) 1st Annual Workshop for URP (Young, Leading Edge Urban) Special Researchers and Joint with Debriefing Session for 1st International Summer Seminar

2016 年度第 1 回 URP 特別研究員（若手・先端都市）合評会が、第 1 回夏季セミナー@ソウル報告会および第 1 回先端都市学講座とあわせて、2016 年 11 月 25 日（金）・26 日（土）に開催された。

合評会は、グローバル COE 事業終了後もグローバルな学術拠点として活発な活動を展開している URP のグローバル COE 継続事業として、毎年 2 回開催しているものである。1 日目午前は、杉本キャンパス学術情報総合センター文化交流室にて特別研究員の発表によるセッション I が開催され、計 6 名が報告を行った。

島﨑未央は日本近世後期の堺に油市場が設定された理由と地域の対応について、続いての三田智子は 19 世紀の大坂渡辺村の村落構造についての報告を行った。3 番目には、黒澤悠がフランス・リールで行われている創造産業の育成について、訪問した経験も踏まえた報告を行い、河野康治は関一の田園郊外思想とその実践について報告を行った。さらに武岡暢は研究発表として西成データアーカイブについての報告を行い、2016 年夏季セミナー参加報告として、訪問した城東共同社会経済推進団についての説明を行った。最後に、志賀信夫が武岡と同様に夏季セミナー報告として、ソウル研究院訪問とフィールドワークの様子を紹介して、セッション I を終えた。

各報告の後には、活発な質疑応答が行われた。参加者がそれぞれの立場から多様な質問を出したが、それらの議論を通じて相互の理解が深められ、各研究に対して大きな刺激を与える機会となった。

■三田智子（URP 特別研究員〔若手・先端都市〕）

合評会の 2 日目は、西成プラザで開催された。

午前中のセッション 1 番目は、アイヴァン・ローミチによりイタリアヴェネト州における移動度データ(Mobility Data)を使ったクラスター解析結果についてからはじまった。ついで、川口夏希によりフランス・リール地方における「参加型」都市再生の事例についての報告があり、クルムズ・メリチは、大阪・堀江のバブル経済崩壊後の町再活性化を分析した結果を報告した。蕭閎偉は、台湾台北市の南機場地区の整健住宅団地における福祉のまちづくりの事例を論じた。

午後は、全泓奎教授による開催挨拶の後、2016 年夏季セミナーの報告が行われた。第 1 番目は掛川直之により、ソウル市が進める「訪問する洞住民センター」政策の現状報告が行われた。2 番目には、沼田里衣による韓国保健社会研究院及びハジャセンターに関する報告が行われた。3 番目は、蕭閎偉によるソウル市の鍾路区敦義洞のドヤ街であるチョッパン地域に関して報告があった。

以上をもって第 1 回 URP 特別研究員（若手・先端都市）合評会兼夏季セミナー報告会の全てのプログラムが終了した。休憩を挟んで先端都市学講座が開かれ、白熱した議論が展開された（次頁参照）。

■河野康治（URP 特別研究員〔若手・先端都市〕）

On the 25th and 26th of November 2016, "Osaka City University's Urban Research Plaza (Platform for Leading-Edge Urban Studies) 1st Annual Workshop for URP (Young, Leading-Edge Urban) Special Researchers" was held in the Osaka City University's Nishinari Plaza. On the first day, 4 URP special researchers (Mio Shimazaki, Tomoko Mita, Yu Kurosawa, Koji Kawano, Toru Takeoka) presented their research. On the second day, 3 URP special researchers (Naoyuki Kakegawa, Rii Numata, Hsiao Hong-Wei) reported on the URP international summer seminar in Seoul. After the break, the Leading-Edge Urban studies Seminar was held, with heated argument, by Kazuo Takada (lecturer),Yasuyo Nomura(debater), Yuichirou Nishino(debater).

第１回先端都市学講座
The 1st Leading-edge Urban Studies Seminar.

都市研究プラザ先端的都市研究拠点の新しい企画として「先端都市学講座」を開講した。都市論関連分野の第一線で活躍されている先生方をお呼びして、大阪市立大学の研究者とともに公開の場で議論しようというものである。今年度は全２回構成である。

テーマは「社会政策学と居住福祉学の対話」。社会的包摂のありかたを構想するうえで、社会政策学と居住福祉学はともに重要な役割を担うはずでありながら、両者の議論をかみ合わせる機会は少ない。これら両者を架橋することで、制度とインフォーマルな実践、労働と社会保障など、さまざまに拮抗し合う要素どうしのバランスをいかにして考えるかという課題が新たに見えてくるのではないか。労働政策について研究を続けてこられ、当拠点の外部評価委員長でもある高田一夫（一橋大学名誉教授）をお迎えした。

最初に、居住福祉学が内包するふたつの視点、すなわち建築学と社会福祉学をそれぞれ専攻する野村恭代（大阪市立大学生活科学研究科・准教授）と西野雄一郎（URP 特別研究員）が最近の研究成果を報告した。野村氏は「施設コンフリクトの実態と展開―合意形成プロセスの検証」と題して、障害者施設の NIMBY 問題が変容する過程で「つながり」という新しい資源を形成した事例を紹介した。西野氏は「公営住宅の空き住戸を利用したコミュニティビジネスの実態と特性」と題して、利用者が空間のデザインに関与できるようになると活動の可能性が広がることを示した。引き続き、高田氏が「私的空間と共同性―市民社会における〈場〉の創出」を論じた。欧米と比較しながら日本の社会政策の歴史を振り返り、「個的社会」でありながら「能力主義的平等主義」を引きずり「非能力主義的平等主義」に移行できていない日本の社会保障の今後を展望した。その後のパネルディスカションではフロアからも活発な発言があり，議論は懇親会にまで持ち越された。

第２回「元犯罪者の再統合とインクルーシブなコミュニティづくり」は 2016 年 1 月 21 日（土）に開催された。報告は次号以降に掲載する。

■綱島洋之（URP 特任助教）

We launched “The Leading-edge Urban Studies Seminar”. In this series of lecture, a researcher who plays leading roles in urban studies is invited as a lecturer to discuss some important topics with researchers in Osaka City University in a public place. After the research report by Yasuyo Nomura (Graduate School of Human Life Science) and Yuichiro Nishino (URP), the lecturer Kazuo Takada (Professor Emeritus, Hitotsubashi University) discussed social security system in the past and future Japan in comparison with those of Western countries. The following panel discussion was well attended; the panelists and the audience lively had an interdisciplinary argument.

第１回 URP 特別研究員（若手・先端都市）合評会兼第１回夏季セミナー報告会プログラム

▼11 月 25 日（金）

開催挨拶（9:45～9:55）

阿部昌樹（URP 所長）

Session1（9:55～12:10）

島崎未央

「近世後期堺における油市場設定と地域」

三田智子

「大坂渡辺村の村落構造－19 世紀を中心に－」

黒澤悠

「社会的連帯経済と創造産業育成－仏リールの事例から－」

河野康治

「関一の田園郊外思想とその実践」

武岡暢

「ジョブ、失業、西成データアーカイブ」

「城東協同社会経済推進団」（夏季セミナー報告）

▼11 月 26 日（土）

Session2（10:15～11:55）

アイヴァン・ローミチ

「Using Mobility Data for Cluster Identification: Case Study of Vento Region, Italy」

川口夏希

「フランス・リール地域の『参加型』都市再生」

メリチ・クルムズ

「An Analysis of the Different Social Attitude towards Horie’s Revitalization after the High Economic Growth Period」

蕭閔偉

「住宅団地における福祉のまちづくりの取り組みに関する考察－台湾台北市南機場地区の整健住宅団地を事例として－」

夏季セミナー報告会（13:10～13:50）

掛川直之

「ソウル市立大学－住民と行政が協働する「訪ねる洞住民センター」」

沼田里衣

「韓国保健社会研究院＆ハジャセンター」

志賀信夫

「ソウル研究院訪問とソウル市における取組みについて」

蕭閔偉

「ソウル市鍾路区嘉会洞のチョッパン地域について」

＊司会・タイムキーパーはコルナトウスキ・ヒェラルド（URP 特任助教）、箱田徹（URP 特任助教）、綱島洋之（URP 特任助教）、鄭栄鎭（URP 特任助教）が交替して務めた。

第８回 EARCAG 国際会議
ー理論と実践におけるラジカリズム
The 8th East Asian Regional Conference in Alternative Geography (EARCAG) “Radicalism in Theory and Practice”

12 月 6 日（火）から 8 日（木）にかけて、香港浸会大学地理学部が都市研究プラザと URP 香港海外センターの後援で「The 8th East Asian Regional Conference in Alternative Geography (EARCAG): Radicalism in Theory and Practice」を開催した。今回は「理論と実践におけるラジカリズム」をテーマにし、地理学を超える学際的クリティカル・スタディーズいう形で、現在都市社会課題の集中的議論を行った。80 名ほどの発表者が集まり、参加者は 120 名を上回った。今回は 3 つのキーノートスピーカーが講演を行い、アンディー・メリフィールド（Andy Merrifield）は総括なテーマである「Planetary Urbanism」について議論をし、ウィンサン・ロー（Wing-sang Law）は「香港におけるラジカリズムの展開過程」、そしてディック・ロ（Dick Lo）は「中国本土におけるニューレフト」をテーマとし理論と実践両面での課題を取り上げた。

ポスト会議としては、中国南部における都市化過程をテーマに、12 月 9 日（金）から 12 日（月）にかけて、深圳・ドングアン・広州の各地域の典型的特徴を現地の専門家の下で観察した。滅多にない中国の都市社会空間を訪れるチャンスでもあり、参加者全員にとって記憶に残る巡検であった。

■ヒェラルド・コルナトウスキ（URP 特任助教）

From 6/12 to 8/12, The Hong Kong Baptist University Geography Department, with sponsorship from the URP Hong Kong Overseas Center and the Urban Research Plaza, organized “The 8th East Asian Regional Conference in Alternative Geography (EARCAG): Radicalism in Theory and Practice”. Approaches ranged from geography to critical studies, with a focus on urban socio-spatial issues. Any Merrifield, Wing-sang Law and Dick Lo were invited as keynote speakers. The conference was followed up by a 4-day excursion to the urban area of the East Pearl River Delta.

第６回オープンナガヤ大阪２０１６
The 6th Open Nagaya Osaka 2016

昨年第 6 回目となるオープンナガヤ大阪を 11 月 12,13 日と開催しました。前回 28 会場 30 数戸から、今回はなんと 41 会場、50 戸以上オープンされ、来場者ものべで 3 ,200 人を超える規模になりました。これは市大の広報、マスコミ、ソーシャルメディアの力が大きかったのですが、年一回のイベントにとどめず通年で使えるガイドマップを早々と作ったり、事前に 5 回に渡るオープンナガヤスクールを開催したり、実行委員会をオープンにしたといったことも、大きな要因ではないかと思います。

「暮らしびらき」をテーマに、大阪長屋と長屋暮らしの魅力を発信し、保全活用を進めるというのが狙いで、会場は大阪市内 9 区と八尾、堺に広がりました。店舗（飲食、物販）、アトリエ、事務所、レンタルスペースそして住居という会場で、内覧、相談会、講演、漫談、落語、図面や作品の展示、まち歩きなど、会場ごとに工夫を凝らした多様なイベントが繰り広げられました。

13 日のクロージング･イベントでは、来場者の方々から「ガイドマップが凄い。見ているだけで歩きまわった気になる」「スタッフが楽しそう」「長屋に住みたい」「大家だが、これから耐震の勉強をしたい。若々しいデザインの改修を見て衝撃を受けた。ビジネスとしての未来を感じた」「古いものと新しいものが上手く合っている」等々嬉しい感想をいただきました。大阪長屋とそこでの暮らしの魅力を、これからも多くの人々に伝えて行きたいと考えます。

■藤田忍（生活科学科教授、URP 兼任研究員）

Re:Toyosaki／行田夏希

On the 12th and 13th November 2016, the 6th “Open Nagaya Osaka” was held. This time more than 50 houses in 41 venues were opened in 9 wards of Osaka city and Yao, Sakai. The number of visitors also exceed 3,200 people. This event is based on the theme of “ life living”, the aim is to disseminate the charm of Osaka Nagaya and Nagaya living and to promote conservation and utilization. Private viewing, consultation, lecture, comic chat, rakugo, exhibition of drawings and works, town walking etc were held at venue known as a stores (restaurants, stores), an atelier, an office, a rental space and a house.

都市研究プラザ 10 周年記念国際シンポジウム
「文化の創造性と復元力（レジリエンス）：ヒト・モノ・コト・記憶の関係性」
Urban Research Plaza 10th Anniversary International Symposium
Cultural Creativity and Resilience: A Framework to Associate Person/Thing, Event, and Memory”

都市研究プラザ創立 10 周年記念国際シンポジウム「復元力（レジリエンス）のある都市をめざして」（2016 年 9 月 22 日～24 日）の 3 日目は、杉本キャンパスにおいて、「文化の創造性と復元力：ヒト・モノ・コト・記憶の関係性」をテーマにした報告と展示を実施した。基礎理論としては、モノとヒト、記憶やイベントなどをアクターとするアクターネットワーク理論である。この日の主要な「アクター」は『メタアセコイア』である（詳細はプラザ HP レポート、ドキュメントの岡野編集分を参照）。

セッション 1「地域の復元力」では地域にゆかりのあるヒトやモノ、記憶に焦点を当て、地域間の関係性と文化の力を振り返った。

登壇者：關淳一（日本 WHO）、吉村直樹（田邊ホープゾーン協議　会）、田丸八郎（信太の森ＦＡＮクラブ）、難波りんご（天王寺蕪の会）

セッション 2「木/土と教育の復元力」では、地域の自然とモノ（樹木や土壌）、出来事などから、次世代に伝えるべき復元力を見出そうとした。

登壇者：山田麻香（大塚オーミ陶業）、渡邊潤（ノリタケの森）、下出大介（昭和記念公園事務所）、徳永拓（吉野町役場）、中川浩佑（中川弦楽器製造）

セッション 3「メタセコイアと文化の復元力」（自然と植物）では、化石発見 75 年・生存発見 70 年の本年において、メタセコイアの持つ歴史的・現代的意味や三木茂教授（大阪市立大学）をはじめ様々な人々の想いを通して、地域やモノ、文化の復元力との関係を議論した。

登壇者：塚腰実（大阪市立自然史博物館）、大塚隼（私市）、小田純之介・澤田優（夕陽丘高等学校２年）、杉村浩司（昭和中学校）、板倉宏明（雲雀丘学園）

特別セッションとして、塩崎雅亮氏（エム・シオザキ弦楽器工房）による「ギターの音色を生み出す木材と技術」に引き続き、杉田健司氏（杉田 AG）および佐野博士氏（寺田楽器）のギター製作家による自然や生物の音の再現・復元活動の話のなかで、倍音の意味や次世代への技術の継承、枯渇する資源への対応と大学植物園の貢献のあり方などを語っていただいた。

これをステップとして、6 月 9-11 日の理学部付属植物園（私市）が実施する本学主催・国際シンポジウム「人と植物の共生：都市の未来を考える」でさらなる展開を企画している。

■岡野浩（URP 専任研究員／経営学研究科教授）

On the 3rd day of the 10th anniversary international symposium of the Urban Research Plaza founding, we conducted a report and exhibition on the theme of “Cultural Creativity and Resilience: A Framework to Associate Person/Thing, Event, and Memory” at Sugimoto Campus. The tree of the Taxodiaceae (now Cupressaceae) “Metasequoia” of the symbol of Osaka City University, and the space known as the main campus “Sugimoto” and the attached botanical garden at “Kisaichi, Katano City”, we discussed a focus on how they act on the resilience of the community.

■都市プラザ関連の近刊：

『包摂都市のレジリエンス：理念モデルと実践モデルの構築』

・編　者：阿部昌樹 水内俊雄 岡野浩 全泓奎
・出版元：水曜社　・2017年3月刊行予定

本書は、都市研究プラザ発足後10年間で蓄積してきた、都市研究プラザを中心とした都市関連の研究や学術資源を、さらに国内外の共同研究機関や関連研究者コミュニティと共有・協力するプロセスにおいて築いてきた研究成果の総和として企画したものです。乞うご期待ください。

URP Osaka City University 大阪市立大学 | Urban Research Plaza 都市研究プラザ

「都市研究プラザ」は、都市再生へのチャレンジとして大阪市立大学が 2006 年 4 月に設立した全く新しいタイプの研究教育組織です。「プラザ」という名前が示すように、都市をテーマとする人々が出会い、集まる広場をめざしています。先端的都市研究拠点として、現場や海外での研究・まちづくり活動、さらに、世界第一線級の研究者や政策家と国際的なネットワークを構築しています。

http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/

大阪市立大学都市研究プラザ　ニューズレター　第 34 号
編集長（発行責任者）阿部昌樹
副編集長　水内俊雄　岡野浩　全泓奎
編集主幹　鄭栄鎭　尾形由記

〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138　tel.06-6605-2071
e-mail：office@ur-plaza.osaka-cu.ac.jp
所長　阿部昌樹　　副所長　水内俊雄　加幡真一
ユニット長　1U 阿部昌樹　2U 嘉名光市　3U 水内俊雄　4U 岡野浩